

センターの概要

鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センターは、地域学部と附属学校部（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）の連携性を高め、教育・研究における明確な枠組みの共有化を図り、子どもの発達や学習のメカニズム、教育指導法等に関する学際的な研究を推進する目的で設置されました。当センターには、教育実践部門、認知・脳科学部門、こころの地域ネットワーク支援室があり、授業実践研究、医学部や工学部と連携した脳科学分野の基礎研究に取り組むとともに、得られた知見や成果を地域・社会（公教育、家庭教育、医療、福祉分野など）に還元する活動を推進します。これまで主に附属小・中学校と連携し、教育実践研究、コホート（縦断的観察）研究、教師教育、Dyslexia（読字障害）に関する研究などに取り組んでおり、子どもたちの発達・学習の基盤を安定させ、より良い育ちを促進させる具体的な成果を目指しています。



教育実践部門

部門長 小笠原 拓

教育実践部門では、附属学校部（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）と連携し、授業づくりや教材開発を通じて、子どもたちへの効果的な学習支援の在り方について研究しています。地域学部における研究成果も取り入れながら、地域の環境を生かした授業づくりのあり方や地域教材の発掘などにも、附属学校教員と大学教員が連携して取り組んでいます。さらに、豊かな学びを創造するために必要な教師の学びとは何かという観点から、「教師の学びを支援する環境づくり」についても研究を行っています。



認知・脳科学部門

部門長 田中 大介

子どもの発達を明らかにするための学問的アプローチは多様です。心理学や医学、脳科学や工学など様々な分野から子どもの発達や学習を検討することができます。こうしたことを踏まえ、認知脳科学部門には、さまざまな学問領域をバックグラウンドとする研究者が在籍しています。それぞれの専門的見地から、ときには領域架橋的な連携をしつつ、基礎的な知見を積み上げています。個々の研究は、すぐに教育や福祉の現場に活用されるものばかりとはいえません。しかし、地道な知見の構築を通じて、子どもの健やかな発達に貢献するという理念を共有しながら、学生の専門研究の機会も提供しつつ、研究を行っています。



こんな人がいます



センター長 小林勝年 KOBAYASHI Katsutoshi 地域学部教授

発達とは潜在的可能性が内的な必然性にもとづいて外に現れる過程であり、それがどう伸びていくかは真理・真実に向かって自由です。それを外的な価値に従属させて制度の虐待の下におくのではなく、発達の原動力の生成に必要かつ適切な教育的発達の源泉を教育的に組織していくことが発達保障の取り組みであり、本センターのミッションです。



専任教員 儀間裕貴 GIMA Hirotaka 地域学部特命講師

理学療法士として、子どもの発達を促すことに取り組んできました。また、特に赤ちゃんの運動発達について研究してきました。ヒトがいかにして発達するのか、そのメカニズムは本当に神秘的です。発達と学習に関わる研究に学際的に取り組み、子どもたちのより良い育ちにつながる知見を、当センターから積極的に発信したいと思っています。

教育実践部門15人 地域学部13人 教員養成センター2人

認知・脳科学部門14人 地域学部8人 医学部4人 工学部2人 コーディネーター1人

※平成29年3月現在